

罪と連帯

罪の内に連帯責任を求めても居なければほしくもない。しかし、避けられない事実であり認めておかなければ癒しと言うものはいない。不思議なことに私自身が罪を犯したことから生じる責任ではない。もっと深いもので集団的無意識に絡むものです。人間が皆属している状態です。

罪は私の外にあるからと言って避けて否定すべきものではない。むしろ、私の奥深いところに存在するし、私たち皆が属している人間状況そのものの奥深いところに潜んでいます。そこで癒しと救いを待ち望んでいる。

私たちが罪人であり、病人でありイエスが救いに来た迷った羊であることを認めなければ、自分の貧しさを認めて[幸い]といわれる人々の中に居ないし、神の国を相続する人たちではない。人間の苦しみと連

帯することは助けられる人も助ける人も自由にしてくれる、一意識的
に認識することによって.